



## 2023年3月期 第3四半期決算短信(日本基準)(非連結)

2023年2月6日

上場会社名 日本ラッド株式会社

上場取引所 東

コード番号 4736 URL <https://www.nippon-rad.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役 (氏名) 大塚 隆一

問合せ先責任者 (役職名) 取締役 経営企画室長 (氏名) 土山 剛

TEL 03-5574-7800

四半期報告書提出予定日 2023年2月14日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

### 1. 2023年3月期第3四半期の業績(2022年4月1日～2022年12月31日)

#### (1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年3月期第3四半期	2,515	7.9	2		56		48	
2022年3月期第3四半期	2,332	13.8	27		9		15	

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年3月期第3四半期	9.12	
2022年3月期第3四半期	2.98	

#### (2) 財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	百万円	百万円	%	円 銭
2023年3月期第3四半期	3,919	2,545			64.9	485.11
2022年3月期	4,031	2,542			63.1	480.96

(参考)自己資本 2023年3月期第3四半期 2,545百万円 2022年3月期 2,542百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年3月期		0.00		5.00	5.00
2023年3月期		0.00			
2023年3月期(予想)				5.00	5.00

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 2023年3月期の業績予想(2022年4月1日～2023年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	3,480	5.0	60	6.0	100	32.2	65	240.2	12.30

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

## 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

以外の会計方針の変更 : 無

会計上の見積りの変更 : 無

修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2023年3月期3Q	5,355,390 株	2022年3月期	5,355,390 株
期末自己株式数	2023年3月期3Q	107,356 株	2022年3月期	69,556 株
期中平均株式数(四半期累計)	2023年3月期3Q	5,281,933 株	2022年3月期3Q	5,285,834 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

### 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社としてお約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	2
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	3
2. 四半期財務諸表及び主な注記 .....	4
(1) 四半期貸借対照表 .....	4
(2) 四半期損益計算書 .....	6
第3四半期累計期間 .....	6
(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書 .....	7
(4) 四半期財務諸表に関する注記事項 .....	8
(継続企業の前提に関する注記) .....	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	8
(四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用) .....	8
(追加情報) .....	8
(セグメント情報等) .....	9

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第3四半期累計期間におけるわが国経済は、ゆるやかに持ち直しつつありますが、為替の急激な変動による物価やエネルギー価格の不安定性やロシアによるウクライナへの軍事侵攻の長期化など、企業を取り巻く環境は厳しい状況が続いております。

このような状況の中、当社はIoT事業についてはほぼコロナ前水準に戻ったと思われるイベント・展示会等での直接新規顧客獲得を強化しつつ、SaaS、PaaS系インテグレーションサービスにおいては当社の持ち味であるきめ細かな提案をより多くの潜在顧客に伝えるべく、オンラインでのセールス・マーケティング活動を拡大、引き続き官庁・大企業の重要課題であるレガシーシステムのマイグレーションニーズを的確に捉える「JANUS Studio®」を軸にしたマイグレーション提案や、エンタープライズソリューションにおいてはDX化、特に中小企業のインボイス対応体制構築をスピーディーに後押しするキントーンベースの新体系kinterp Lightを市場投入し様々なレイヤーでの重層的な対応力と提案を展開してまいりました。

この結果、当社の当第3四半期累計期間の売上高は、25億15百万円（前年同四半期比7.9%増）となりました。損益につきましては、営業利益2百万円（前年同四半期は27百万円の損失）、経常利益56百万円（前年同四半期は9百万円の損失）、四半期純利益48百万円（前年同四半期は15百万円の損失）となりました。

セグメントごとの経営成績は、次のとおりであります。

#### 「エンタープライズソリューション事業」

各業種向けの派遣常駐型システム開発及び受託請負型システム開発案件においては、ほぼ予定通りの展開となり、さらに一部既存大型顧客からの拡大要請に注力した結果、受注増となりました。基幹システム系開発については、活発なシステム投資意欲を背景とした引き合い増加の中、リソース確保とスキルアップに重点を置きながら案件の取捨選択と体制強化を行っております。その結果、売上高は15億98百万円（前年同期比7.9%増）となりました。

#### 「IoTインテグレーション事業」

インダストリアルIoT分野及び医療IoT分野においては、ポストコロナも見据えこれまで抑制気味であった設備投資意欲の復活を受け、既存顧客及び新規顧客共に受注が増加いたしました。インダストリアルIoTについては展示会経由の新規受注が増加、特にプラットフォーム展開の中核となるクラウドサービスkonektiのアプライアンス提供が好評を博しております。また、医療機関向け自動再来受付システム等の販売・開発につきましても受注増となりました。自動車搭載セキュリティシステムのロイヤリティ収入は引き続き成長拡大しており、安定的に導入事例を伸ばしております。映像情報システム関連については受注の伸び悩みはありますが前年同期を若干上回りました。その結果、売上高は9億17百万円（前年同期比7.8%増）となりました。

### (2) 財政状態に関する説明

#### (資産)

当第3四半期会計期間末における流動資産は33億6百万円となり、前事業年度末に比べ89百万円減少いたしました。これは主に現金及び預金が2億81百万円減少しましたが、受取手形、売掛金及び契約資産が76百万円、原材料が34百万円増加したこと等によるものです。固定資産は6億13百万円となり、前事業年度末と比べて22百万円減少いたしました。これは主に有形固定資産が7百万円増加した一方、投資その他の資産において、投資有価証券の売却等により24百万円減少、貸倒引当金が5百万円増加したこと等によるものです。

この結果、総資産は39億19百万円となり、前事業年度末に比べ1億11百万円減少いたしました。

#### (負債)

当第3四半期会計期間末における流動負債は6億10百万円となり、前事業年度末に比べ41百万円減少いたしました。これは主に未払法人税等が29百万円、賞与引当金が49百万円減少しましたが、買掛金が13百万円、その他が30百万円増加したことによるものです。固定負債は7億63百万円となり、前事業年度末に比べ73百万円減少いたしました。これは主に長期借入金1億円減少し、退職給付引当金が27百万円増加したこと等によるものです。

この結果、負債合計は13億74百万円となり、前事業年度末に比べ1億14百万円減少いたしました。

#### (純資産)

当第3四半期会計期間末における純資産合計は25億45百万円となり、前事業年度末に比べ3百万円増加いたしました。これは主に四半期純利益の計上及び配当金の支払いにより利益剰余金が21百万円増加しましたが、自己株式の取得により17百万円減少したことによるものであります。

この結果、自己資本比率は64.9%（前事業年度末は63.1%）となりました。

## (キャッシュ・フローの状況)

当第3四半期会計期間末における現金及び現金同等物(以下「資金」という。)は、前事業年度末と比較して2億81百万円減少し、23億94百万円となりました。

当第3四半期累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの主な要因は次のとおりであります。

## ・営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動の結果使用された資金は、1億41百万円(前年同期は0百万円の獲得)となりました。これは主に、税引前四半期純利益74百万円を計上したものの、売上債権及び契約資産の増加による支出76百万円、棚卸資産の増加による支出41百万円、仕入債務の減少による支出69百万円のほか、法人税等の支払による支出47百万円によるものです。

## ・投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動の結果獲得した資金は、4百万円(前年同期は26百万円の使用)となりました。これは主に、有形固定資産の取得による支出13百万円、無形固定資産の取得による支出27百万円、投資有価証券の売却による収入47百万円によるものです。

## ・財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動の結果使用された資金は、1億44百万円(前年同期比14.2%増)となりました。これは主に長期借入金の返済による支出1億円、自己株式の取得による支出17百万円、配当金の支払いによる支出26百万円によるものです。

## (3)業績予想などの将来予測情報に関する説明

業績予想につきましては、本資料の公表時点において、2022年5月16日の決算短信で発表しました通期業績予想に変更はありません。

本資料に記載されている業績見通し等将来に関する記述は、当社が現時点で入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、多分に不確実な要素を含んでおります。実際の業績等は様々な要因により予想数値と異なる可能性があります。

## 2. 四半期財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (2022年3月31日)	当第3四半期会計期間 (2022年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	2,676,035	2,394,306
受取手形、売掛金及び契約資産	592,534	669,143
製品	9,106	13,309
仕掛品	6,459	9,240
原材料	34,547	68,876
その他	77,370	152,036
貸倒引当金	△83	△92
流動資産合計	3,395,969	3,306,820
固定資産		
有形固定資産		
建物（純額）	11,940	13,895
車両運搬具（純額）	0	0
工具、器具及び備品（純額）	13,237	18,714
有形固定資産合計	25,178	32,609
無形固定資産		
ソフトウェア	83,418	66,838
その他	12,055	28,626
無形固定資産合計	95,473	95,464
投資その他の資産		
投資有価証券	436,170	411,196
その他	194,168	195,569
貸倒引当金	△115,827	△121,699
投資その他の資産合計	514,512	485,066
固定資産合計	635,163	613,141
資産合計	4,031,133	3,919,961
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	158,074	171,129
1年内返済予定の長期借入金	120,000	120,000
未払法人税等	39,198	9,218
賞与引当金	65,897	16,661
受注損失引当金	5,535	73
その他	263,273	293,479
流動負債合計	651,980	610,561
固定負債		
長期借入金	120,000	20,000
退職給付引当金	510,070	537,415
資産除去債務	2,039	2,052
長期未払金	200,815	200,815
その他	3,932	3,264
固定負債合計	836,857	763,548
負債合計	1,488,837	1,374,109

(単位：千円)

	前事業年度 (2022年3月31日)	当第3四半期会計期間 (2022年12月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,239,480	1,239,480
資本剰余金	973,222	973,222
利益剰余金	327,463	349,188
自己株式	△32,271	△49,963
株主資本合計	2,507,894	2,511,926
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	34,401	33,925
評価・換算差額等合計	34,401	33,925
純資産合計	2,542,296	2,545,851
負債純資産合計	4,031,133	3,919,961

## (2) 四半期損益計算書

(第3四半期累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)	当第3四半期累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)
売上高	2,332,006	2,515,827
売上原価	1,947,044	2,059,216
売上総利益	384,961	456,611
販売費及び一般管理費	412,709	454,044
営業利益又は営業損失(△)	△27,747	2,566
営業外収益		
受取利息	178	176
受取配当金	18,395	50,273
その他	3,248	4,015
営業外収益合計	21,822	54,465
営業外費用		
支払利息	1,135	723
貸倒引当金繰入額	2,530	—
支払手数料	—	183
その他	0	0
営業外費用合計	3,666	907
経常利益又は経常損失(△)	△9,592	56,125
特別利益		
固定資産売却益	2,844	—
投資有価証券売却益	—	18,285
特別利益合計	2,844	18,285
特別損失		
固定資産除却損	77	0
特別損失合計	77	0
税引前四半期純利益又は税引前四半期純損失(△)	△6,824	74,410
法人税等	8,906	26,255
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△15,731	48,154



## (3) 四半期キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第3四半期累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)	当第3四半期累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税引前四半期純利益又は税引前四半期純損失 (△)	△6,824	74,410
減価償却費	35,358	34,932
退職給付引当金の増減額 (△は減少)	11,862	27,345
賞与引当金の増減額 (△は減少)	△47,745	△49,235
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	2,358	△171
受注損失引当金の増減額 (△は減少)	161	△5,462
受取利息及び受取配当金	△18,573	△50,450
支払利息	1,135	723
為替差損益 (△は益)	△2,653	△338
投資有価証券売却損益 (△は益)	—	△18,285
有形固定資産売却損益 (△は益)	△2,844	—
有形固定資産除却損	77	0
売上債権及び契約資産の増減額 (△は増加)	△31,805	△76,608
棚卸資産の増減額 (△は増加)	△8,902	△41,313
仕入債務の増減額 (△は減少)	△39,748	△69,031
その他	81,872	29,563
小計	△26,271	△143,922
利息及び配当金の受取額	18,572	50,448
利息の支払額	△1,290	△787
法人税等の還付額	17,118	—
法人税等の支払額	△7,697	△47,559
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>432</b>	<b>△141,821</b>
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	△4,620	△13,354
無形固定資産の取得による支出	△19,047	△27,948
投資有価証券の売却による収入	—	47,885
貸付けによる支出	△1,274	△1,000
貸付金の回収による収入	532	760
その他	△1,949	△1,949
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>△26,359</b>	<b>4,392</b>
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
長期借入金の返済による支出	△100,000	△100,000
自己株式の取得による支出	—	△17,692
ファイナンス・リース債務の返済による支出	△427	△653
配当金の支払額	△26,258	△26,292
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>△126,685</b>	<b>△144,637</b>
現金及び現金同等物に係る換算差額	123	338
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△152,489	△281,728
現金及び現金同等物の期首残高	2,921,033	2,676,035
現金及び現金同等物の四半期末残高	2,768,544	2,394,306

（4）四半期財務諸表に関する注記事項

（継続企業の前提に関する注記）

該当事項はありません。

（株主資本の金額に著しい変更があった場合の注記）

当社は、2022年11月7日開催の取締役会決議に基づき、自己株式37,800株の取得を行いました。この結果、当第3四半期累計期間において自己株式が17百万円増加し、当第3四半期会計期間末において自己株式が49百万円となっております。

（四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用）

（税金費用の計算）

税金費用については、当第3四半期会計期間を含む事業年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

（追加情報）

（新型コロナウイルス感染症拡大の影響に関する会計上の見積り）

当第3四半期累計期間において、新たな追加情報の発生及び前事業年度の有価証券報告書に記載した情報等についての変更はありません。

(セグメント情報等)

## 【セグメント情報】

I 前第3四半期累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント		合計	調整額 (注) 1	四半期損益 計算書計上額 (注) 2
	エンタープライズソ リューション事業	IoTインテグレーシ ョン事業			
売上高					
外部顧客への売上高	1,480,734	851,272	2,332,006	—	2,332,006
セグメント間の内部 売上高又は振替高	6,962	10,879	17,841	△17,841	—
計	1,487,696	862,151	2,349,847	△17,841	2,332,006
セグメント利益	222,246	14,725	236,971	△264,718	△27,747

(注) 1. セグメント利益の調整額△264,718千円は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益は、四半期損益計算書の営業損失と調整を行っております。

II 当第3四半期累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント		合計	調整額 (注) 1	四半期損益 計算書計上額 (注) 2
	エンタープライズソ リューション事業	IoTインテグレーシ ョン事業			
売上高					
外部顧客への売上高	1,598,037	917,790	2,515,827	—	2,515,827
セグメント間の内部 売上高又は振替高	5,805	24,979	30,784	△30,784	—
計	1,603,842	942,769	2,546,612	△30,784	2,515,827
セグメント利益	235,027	64,582	299,609	△297,042	2,566

(注) 1. セグメント利益の調整額△297,042千円は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益は、四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。